コミュニティ・スクール設置の取組

七宗町教育委員会

1. はじめに

山間部に位置する七宗町は、人口 3,419 人、小・中学校児童生徒数 179 人で、例にもれず人口減少の大きい町である。これまでの歴史から、町内は神渕地区と上麻生地区の 2 地区に分けられ、それぞれの地区に小学校 1 校と中学校 1 校が存在する。町内に 4 校あることや今後更に少子化が進むことで、現在では学校の統合が喫緊の課題となっている。これまで住民は、神渕地区と上麻生地区共にそれぞれある学校を“地域の大切な学校”として支援してきた。この風土から、通学ボランティアや環境ボランティア、ふるさと教育を支えていただく“町の先生”に事欠くことは無かったが、人口減少が進み再構築する必要が生じた。時を同じく、コミュニティ・スクール設置の流れを受け、当町に於いても今後の学校支援と地域コミュニティの活性を目指し、令和 4 年 4 月よりコミュニティ・スクールの設置に取り組んだ。

2. 事業のねらい

人口減少に伴い、学校を支える仕組みの再構築と地域コミュニティの活性化を目指す。更に学校の統合に向けた神渕地区と上麻生地区の枠を超えたコミュニティづくりに結び付けたいと願い事業を進める。

3. 具体的な取り組み

(ア) これまでの学校評議員会を活用した学校運営協議会の設置

地域のリーダーが限られることから、どの団体も同じメンバーで活動することが多い。これまでの学校評議員会の構成員も同様であることから、そのまま学校運営協議会の構成メンバーとすることが妥当とした。併せて学校運営協議会を地域学校協働本部とした。

(イ) 設置までのロードマップ

- R3　11 月　校長会にて規則・要綱等の説明（ロードマップ、リーフレットの説明）
- 　12 月　学校職員会にて共通理解を図る
- R4　1・2 月　各学校の評議員会にて説明と共通理解のための話し合い
- 　2 月　保護者の方へリーフレットの配布
- 　3 月　広報誌により住民に周知
- 　4 月　コミュニティ・スクール開始

(ウ) コミュニティ・スクールを理解するための研修の実施

① 地域学校協働活動支援プログラムの短期支援プログラムを活用して、令和 4 年 2 月 2 1 日にぎふ地域学校協働活動センター長の益川様を講師に、教育長、学校長、教頭、学校の先生

及び地域学校協働推進員の２人と教育委員会事務局の職員を対象にリモートで講演をいただき、４月１日から実施していくにあたっての準備に必要なもの、実施していくにあたって必要なことを共有した。

② 長期支援プログラムを活用し、４月２６日、制度の説明と目指す取り組みを確認していただくため、岐阜小学校の青山様にお越しいただき講演をいただいた後に、各学校区に分かれて学校運営協議会をスタートさせた。

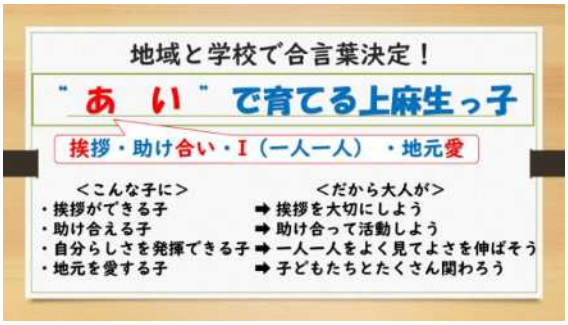
(エ) 実践

① 地域の先生による「ふるさと学習」を位置付ける

・神渕小学校では、今までもやってきた総合的な学習の時間や特別活動の内容を全面的に見直し、コミュニティ・スクールの支援を受けて、地域の先生として協力いただけるような体制にシフト替えを行った。

② 地域と学校で合言葉をつくり意識を統一する

・上麻生小学校では、挨拶ができる子、助け合える子、自分らしさを発揮する子、地元を愛する子、この４つの決意がこめられた「あい」を地域と学校が共有し、同じ考えで子どもたちを育てていくことを大切にしていくことを進めた。



③ 鮎の友釣り体験とふるさと農園活動、地域住民によるグランド草取り

・神渕小学校では、６年生の総合的な学習の時間を「大好き七宗」として「鮎の友釣り体験」を実践した。第１回目が稚魚の放流、２回目がナスを鮎に見立てた友釣りの練習、そして３回目に実際に川に行き鮎の友釣り体験をした。また、全児童対象に、学校運営協議会委員の方の土地を借りて地域の方に講師となっていただきナスやトマトを植えて育てるふるさと農園を取り組んだ。いずれも、学校運営協議会の働きかけにより実践することができた。

・上麻生小学校と神渕小学校の両校で、学校運営協議会が呼びかけ、地域住民によるグランドの草取りが行われ、運動会前の環境整備に繋げることができた。

鮎の友釣り体験の様子

成果

現在、上麻生学校区では地域への部活動の移管で地域の方の今後の部活との関わり方、神渕学校区では資源回収の方法について協議が進んでいる。学校運営協議会が中心となって、学校や地域に関わる課題の解決にむけて取り組めるようになったことが大きな成果となった。